

電波政策 2020 懇談会 サービス WG モバイルサービス TF（第 4 回） 議事要旨

1 日時

平成 28 年 3 月 22 日（火） 15 : 00～17 : 00

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館（総務省） 7 階 省議室

3 出席者（敬称略）

構成員：

森川主査、三瓶主査代理、岩浪構成員、宇佐見構成員、古川代理（栄藤構成員代理）、河合構成員、木谷構成員、斉藤代理（黒田構成員代理）、眞田構成員、島田構成員、関根構成員、丹波構成員、橋本構成員、藤原構成員、行武構成員

総務省：

輿水総務大臣政務官、福岡総合通信基盤局長、渡辺電波部長、佐々木総合通信基盤局総務課長、田原電波政策課長、中沢移動通信課長、新田国際周波数政策室長、中村新世代移動通信システム推進室長、小川移動通信課企画官、庄司電波政策課企画官

4 議事要旨

（1）開会

（2）議事

①構成員からの発表

資料に基づき、関根構成員、橋本構成員、岩浪構成員及び各構成員から説明が行われた。

②事務局からの説明

資料に基づき、事務局から説明が行われた。

③質疑応答・意見交換等

構成員等からの発表及び事務局からの説明の後、質疑応答・意見交換等が行われた。内容は以下のとおり。

- 自律型の自動走行車の課題は、悪天候時に車線等が見えなくなることであるが、ダイナミックマップを利用すれば、レイテンシに関係なく、晴れている時と同じ道

路情報を取得することができる。欧州ではこういった自律的な自動走行だけでは足りないところの開発にシフトしている。

路車間通信、車車間通信やカメラからの情報等も含め、色々な通信手段をどう融合させていくかが課題である。欧州の場合は、路車間通信や車車間通信に関して、通信におけるミッションがハンデになる部分をどうつぶすかということも議論している。

- 発表で20分野を提示したが、構成員の皆様からのプロジェクト提案でほとんどのところがカバーされていると感じる。エネルギー、ファッション・ウェアラブル、見守りサービス・ペットがカバーされていないが、これらのサービスイメージについても出せそうな気がする。
- 20分野は産業系のものと生活系のものの中にスマートシティ的な「場」があり、そこでミックスしていくものを考えると面白いのではないか。
10代の女性の尖った感性で、コミュニケーションメディアとして5Gの何かが使われるようになると良い。
- バasketボールの試合では、フリースローの時に観客がプレッシャーをかけるなど、観客が参加して楽しんでいる。これから参加型メディアも新しい形として発展するのではないか。
- 収益構造の変化については、インターネットの出始めのころのロングテールの話に似ており、積分すると裾野の方が大きい。経済波及効果を定量的にやってみることが必要。ここにいない産業界を巻き込んでいくべき。
- 他の業界もひっくるめて、地域によって多様性のある異なるサービスがやりやすくなるような仕組みがあると良い。たとえば、使っている通信方式や周波数を大括りにして多様なニーズに対応するなど。5Gそのものも異なる技術の集合体になり得る。
- 自営や交通の分野でナローバンドの専用帯域が利用されており、一方でセルラーの帯域が拡大している。これらを5Gでどう融合させるかが課題である。
- 事業構造の変革に対応して、産業横断的なシステム基盤をつくるという考え方は重要である。ETCが普及しているのに、コインパーキングでお金を払っているようなことが起きている。プロモーションをうまく推進することが重要。

○ 今でもイベント会場ではマルチカメラ配信が行われているが、これが5Gではもっと高画質になるのだろう。

一方、若者のコスト意識は重要である。すでに7～8割はスマートデバイスからのアクセスであり、若者は無料の感覚が強い。プレイヤーは設備投資をするが、ユーザーが負担するかは別な問題であることに注意が必要。

④その他

輿水総務大臣政務官から会合の全体を通しての感想及びコメントがあった。

事務局から、次回会合の日程・場所等について説明が行われた。

(3) 閉会

以上